

『医学部保健学科・保健学研究科ファクトブックⅡ』

(沿革・構成編)

1. 沿革・設置目的	・・・P 1	9. ミッション (教育研究上の目的・設置の趣旨目的)	・・・P 5
2. 研究科長・学科長	・・・P 2	10. ディプロマ・ポリシー	・・・P 5
3. 副研究科長	・・・P 2	11. アドミッション・ポリシー	・・・P 7
4. 構成	・・・P 3	12. カリキュラム・ポリシー	・・・P 8
5. 取得可能な学位	・・・P 4	13. 教育上の取り組み	・・・P 8
6. 専任教員数	・・・P 4	14. 学生に関すること	・・・P 8
7. 予算規模	・・・P 4	15. 就職	・・・P 8
8. 校地・校舎等の状況	・・・P 4	16. 教育研究の活動状況等	・・・P 9

1. 沿革・設置目的

◆明治 34 (1901) 年

兵庫県立神戸病院看護婦養成所設立

《設置目的》

兵庫県立神戸病院看護婦養成所設立（明治 35 年兵庫県立神戸病院産婆養成所併設、大正 5 (1916) 年兵庫県立神戸病院看護婦講習所に改称、昭和 19 (1944) 年兵庫県立医学専門学校附属看護婦講習所、昭和 21 (1946) 年兵庫県立医科大学附属看護婦講習所、昭和 24 (1949) 年兵庫県立医科大学附属高等看護学院、昭和 27 (1952) 年兵庫県立神戸医科大学附属高等看護学院、昭和 32 (1957) 年兵庫県立高等看護学院、昭和 34 (1959) 年兵庫県立厚生女子専門学校、昭和 42 (1967) 年国立移管に伴い神戸大学医学部附属看護学校）看護婦・見習看護婦の養成。

◆昭和 30 (1955) 年

兵庫県立保健婦専門学校設置

《設置目的》

兵庫県立保健婦専門学校設置（昭和 34 (1959) 年兵庫県立厚生女子専門学校、昭和 42 (1967) 年国立移管に伴い神戸大学医学部附属看護学校）

◆昭和 44 (1969) 年

兵庫県立保健婦専門学校設置

《設置目的》

◆昭和 56 (1981) 年

医学部附属衛生検査技師学校設置

《設置目的》

医学部附属衛生検査技師学校設置（昭和 47 (1972) 年医学部附属臨床検査技師学校）

臨床検査の進歩並びに医療の高度化に対応できる医療技術者養成。

◆平成 6 (1994) 年

医学部保健学科設置

《設置目的》

医学科の学問体系と併行して教育・研究を一層充実させ、未だ十分に確立されていない研究体系を確立させるとともに、医療の中核を担いリーダーシップを発揮し得る人材の育成を行う。

◆平成 11 (1999) 年

大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)設置

《設置目的》

4 年制大学において育った専門職者に対してさらに高度な教育を行うことにより、教育・研究者や総合保健医療を担う医療専門職者、地域医療・保健における実践指導者、保健医療施設における管理・指導者を育成する。

◆平成13(2001)年

大学院医学系研究科保健学専攻(博士課程)設置

《設置目的》

4年制大学において育った専門職者に対してさらに高度な教育を行うことにより、大学・大学院の教育・研究者、地域保健・社会福祉を統括する行政管理者、保健及び健康管理企業における研究指導者、国際保健に関する研究実践者を育成する。

◆平成16(2004)年

国立大学法人神戸大学発足

◆平成20(2008)年

医学系研究科を改組し、保健学研究科設置

《設置目的》

平成17(2005)年9月に答申された「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」（中央教育審議会）の「大学院教育の実質化—教育課程の組織的展開の強化」, 「国際的な通用性, 信頼性の向上—大学院教育の質の確保」を実現するため, 医学系研究科保健学専攻を構成する3つの教育研究領域である看護学, 病態解析学, 理学・作業療法学を3つの基幹領域と2つの融合領域の5つに再編成し, 教育研究機能の明確化を行うものである。

3つの基幹領域として看護学領域, 病態解析学領域, リハビリテーション科学領域を置き, 保健学固有の学問の深化と発展を, 2つの融合領域として地域保健学領域と国際保健学領域を置き, 地域並びに国際社会へ新しい保健学を展開する。このことにより保健学の独自性が明確化され, 総合保健医療を創造・実践できる本格的な人材育成プログラムが可能となる。また, 基幹領域と融合領域との連携を通して多角的視点に立った教育・研究が可能となり, 体系的に解明する能力を有する人材を養成する。

2. 研究科長・学科長 (H27.5.1)現在

◆高田 哲 (専門:小児保健、発達神経医学)

任期:1期目 (H25(2013).4.1 ~ H28(2016).3.31)



3. 副研究科長 (H27.5.1)現在

◆種村 留美 (専門:高次脳機能障害作業療法、地域リハビリテーション)

任期:4期目 (H27(2015).4.1 ~ H28(2016).3.31)

◆木戸 良明 (専門:内分泌代謝学)

任期:3期目 (H27(2015).4.1 ~ H28(2016).3.31)

◆宮 脇 郁 子 (専門：慢性看護学、成人看護学)

任期：5 期目 (H27 (2015) .4.1 ~ H28 (2016) .3.31)

4. 構 成 (H27.5.1)現在◆医学部保健学科

学科名	入学定員	備考
保健学科	160	
合計	160	(3年次編入 10)

◆保健学研究科

専攻名	入学定員		備考
	(M)	(D)	
保健学専攻	56	25	
合計	56	25	

◆部局内センター○ 総合保健医療推進機構

平成 25 (2013) 年 2 月 20 日設置

- ・目的 本研究科における保健医療の学際的又は総合的な研究及び教育を推進するとともに、その成果をもって社会貢献に寄与することを目的とする。
- ・業務 (1) 保健医療の学際的又は総合的な研究及び教育に関すること。
(2) 保健医療に係る地域貢献及び国際貢献に関すること。
(3) その他機構の目的を達成するために必要なこと。

○ 総合保健医療推進機構地域連携センター

平成 22 (2010) 年 4 月 1 日設置

- ・目的 自治体、NPO 等と連携して、本研究科が有する人的・物的資源を活用することにより、少子高齢社会に適した地域づくり(コミュニティの活性化、地域保健・福祉等に関する地域の課題の発見と解決等)を目指して、地域の発展に貢献するとともにそれを担う人材を養成することを目的とする。
- ・業務 (1) 本研究科における地域連携の推進に関すること。
(2) 地域づくりに関連する人材養成とそのデータベースに関すること。
(3) 地域連携に関する情報の公開と情報の収集に関すること。
(4) 地域連携に関する体制づくりに関すること。
(5) その他センターの目的達成に関すること。

5. 取得可能な学位

◆医学部保健学科

学士（看護学）
学士（保健衛生学）
学士（保健学）

◆保健学研究科

博士課程前期課程：修士（保健学）
博士課程後期課程：博士（保健学）

6. 専任教員数

(H27. 5. 1)現在

→医学部保健学科・保健学研究科ファクトブックⅢ
(データ・資料編)のとおり

7. 予算規模

平成 26 (2014) 年度

運営費交付金等 1,084,000,000 円
外部資金 162,000,000 円
総計 1,247,000,000 円

※1 各部局における予算執行額を予算規模としている（ただし、設備整備費補助金・施設整備費補助金及び目的積立金は除く）。

※2 百万円未満を四捨五入して計上。

8. 校地・校舎等の状況

(H27. 5. 1)現在

◆建物の延べ床面積

17,575 m²

◆教室等

講義室 9 室、 演習室 7 室、 実験実習室 32 室

情報処理学習施設 1 室（補助職員 0 人）、語学学習施設 0 室（補助職員 0 人）

◆専任教員研究室

57 室

9. ミッション（教育研究上の目的、設置の趣旨目的）

◆医学部保健学科

広い知識を授けるとともに、総合保健医療の創造及び実践に係る教育研究を行い、保健医療福祉チームの中で協働して人々の健康を支え、国内外の医療及び人類の幸福に貢献することのできる高度な専門的知識、技術及び豊かな人間性を有する医療人並びに問題を発見し解決していくために必要な科学的・論理的思考、創造的探求心及び研究志向性を有する医療人を養成することを目的としています。

◆保健学研究科

人々の健康を身体的、社会的、倫理的側面から総合的に捉え、総合保健医療の創造及び実践に向けた研究を行っています。

○前期課程

看護学、病態解析学、リハビリテーション科学、地域保健学及び国際保健学を高いレベルで推進できる研究者、教育者及び専門職業人の養成を目的としています。

○後期課程

分析力及び問題解決能力をさらに高度化し、臨床実践を通じて新しい保健学を構築できるリサーチマインドを持った指導的研究者、教育者及び高度専門職業人の養成を目的としています。

10. ディプロマ・ポリシー

◆医学部保健学科

神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としている。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標とする。

この目標達成に向け、本学科では、教育課程を通じて授与する学位に関して、国際的にも卓越した教育を保障するため、以下に示した2つの方針に従って学士の学位を授与する。

○保健学科に所定の期間在学し、それぞれの専攻が定める卒業に必要な単位を修得する。

○卒業までに、医学部保健学科学生がそれぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につける。

「創造性」

旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決できる能力を有する。

「地域性・国際性」

多様な価値観を尊重し、地域社会へ貢献するとともに国際的に活躍できるための基礎的能力を有する。

「専門性と協働」

医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、保健医療福祉チームにおいて協働できる。

◆保健学研究科

博士課程前期課程

神戸大学大学院保健学研究科博士課程前期課程は、臨床実践能力、直面する問題を多角的に分析する能力と問題の解決に必要な研究能力を身につけ、研究・教育・地域医療を柱とする総合保健医療の中で活躍できる教育・研究・医療専門職者を養成することを目標としている。

この目標到達に向け、本研究科では以下に示した2つの方針に従って修士の学位を授与する。

- 保健学研究科に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得して審査に合格する。
- 修了までに、保健学研究科学生が、それぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。

「人間性」

豊かな教養と高い倫理性を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立した医療専門職者として、人々の健康を守るために行動できる。

「創造性」

伝統的な思考や方法を真摯に学ぶとともに、これらの知識を批判的に継承し、受け継いだ思考や方法の中に新たな課題を発見して創造的に解決できる。

「国際性」

多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できる。国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を自ら創造するとともに、各々の地域の状況に最も相応しい形で適用することができる。

「専門性」

それぞれの職業や学問分野において、深い学識と卓越した専門的能力を備える。さらに、専門領域を超え、医療保健福祉チームの一員として協働して働くことができる。

博士課程後期課程

神戸大学大学院保健学研究科博士課程後期課程は、これまでに修得した分析能力、問題解決能力、研究能力をさらに高度化し、創造的・開発的研究を通して、研究・教育・地域医療を柱とする新しい総合保健医療を創造・実践できる独創的かつ自立した教育・研究・医療専門職者を養成することを目標としている。

この目標到達に向け、本研究科では以下に示した2つの方針に従って博士の学位を授与する。

- 保健学研究科に所定の期間在学し、修了に必要な単位を修得して審査に合格する。
- 修了までに、保健学研究科学生が、それぞれの課程を通じて達成を目指す学習目標は次のとおりとする。

「人間性」

豊かな教養と高い倫理性を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立した医療専門職者として、人々の健康を守るために行動できる。

「創造性」

伝統的な思考や方法を真摯に学ぶとともに、これらの知識を批判的に継承し、受け継いだ思考

や方法の中に新たな課題を発見して創造的に解決できる。

「国際性」

多様な価値観を尊重し、異文化のより深い理解に努め、優れたコミュニケーション能力を発揮できる。国際的に普遍的な価値を持つ知識・技術を自ら創造するとともに、各々の地域の状況に最も相応しい形で適用することができる。

「専門性」

それぞれの職業や学問分野において指導的役割を担えるように、深い学識と高度で卓越した専門的能力を備える。さらに、専門領域を超え、医療保健福祉チームの一員として協働して働くことができる。

11. アドミッション・ポリシー

◆医学部保健学科

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため次のような学生を求めています。

○医学部・保健学科の求める学生像

1. 明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
2. ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生
3. 自ら問題を発見し、解決にあたることのできる学生
4. 保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力を備えた学生

◆保健学研究科

保健学研究科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、崇高な倫理観と科学的視点を持ち、人類の健康と幸福に貢献する人材を育成するために国際的にも卓越した保健医療・健康科学に関連する教育を提供することを基本理念としています。このため次のような学生を求めています。

1. 明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
2. 論理的考察力と客観的判断力を持った学生
3. 国際的視野に立って、研究・実践する能力を持った学生
4. 自らの専門性に対する誇りと協調性を持った学生

12. カリキュラム・ポリシー

→医学部保健学科・保健学研究科ファクトブックⅢ
(データ・資料編)のとおり

13. 教育上の取組

- ◆多様な学習の機会 (英語授業, ボランティア活動, 海外留学等)
- ◆ボランティア活動, 海外留学の教育的効果を高めるための、
単位認定以外の特別な取組 (例えば TOEIC 受験など)
- ◆ダブルディグリープログラム受入れ・派遣学生数
- ◆協定に基づく海外留学者数
- ◆4月以外の入学者状況
- ◆ナンバリング導入状況

→医学部保健学科・保健学研究科
ファクトブックⅢ(データ・資料
編)のとおり

14. 学生に関すること

- ◆入学者数等 (H27.5.1 現在) (入学状況等調査のデータを引用)
- ◆留学生の出身地域内訳
- ◆日本人学生の海外派遣人数内訳

→医学部保健学科・保健学研究科
ファクトブックⅢ(データ・資料
編)のとおり

15. 就職

- ◆就職率 (各年5月1日現在、5年分、就職率=就職者/就職希望者)

	平成 22(2010) 年度	平成 23(2011) 年度	平成 24(2012) 年度	平成 25(2013) 年度	平成 26(2014) 年度
学部	94.6%	94.1%	95.9%	93.7%	100.0%
博士前期課程	93.6%	85.7%	97.9%	95.2%	100.0%
博士後期課程	-	95.7%	83.3%	100.0%	88.2%

◆多様な学習の機会（英語授業，ボランティア活動，海外留学等）

◆ボランティア活動，海外留学の教育的効果を高めるための、
単位認定以外の特別な取組（例えば TOEIC 受験など）

◆ダブルディグリープログラム受入れ・派遣学生数

◆協定に基づく海外留学者数

◆4月以外の入学者状況

◆ナンバリング導入状況

→医学部保健学科・保健学研究科
ファクトブックⅢ(データ・資料
編)のとおり

16. 教育研究上の活動状況等

16-1 科研費等

◆科学研究費補助金(補助金分・基金分)

◆共同研究，受託研究，その他外部資金

→医学部保健学科・保健学研究科
ファクトブックⅢ(データ・資料
編)のとおり

16-3 その他の教育研究上の活動状況等

◆海外において通算して1年以上教育研究に従事した日本人教員の在籍状況

17人

◆国外で学位を取得した日本人教員の在籍状況

Master/修士 1人 Ph.D./博士 0人

◆ベンチャーの実績

平成14(2002)年

(株) 膠原病研究所

保健学研究科 塩澤 教授

膠原病を中心とした医薬品の開発、製造及び販売、遺伝情報をもとにした検査および診断薬・方法、及び膠原病を中心とした教育啓蒙事業